



青少年赤十字
JRCふくしま

編集発行

青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

第37回 青少年赤十字福島県指導者研修会 並びに学校公開を終えて

青少年赤十字と

教育目標具現を結ぶ



青少年赤十字両沼指導者協議会長
三島町立三島小学校長
佐藤 則之

第三十七回青少年赤十字福島県指導者研修会並びに学校公開が、十月四日(金)に会津美里町立新鶴小学校・新鶴中学校を会場に開催されました。当日は、福島県内外より二百五十名を超える多くの皆様に御参加頂き本当にありがとうございました。

学校公開にあたり研究推進を担ったのは、新鶴小・中学校の校長先生をはじめとする諸先生方ではあることはいまでもなく、二年間という限られた期間の中で青少年赤十字の精神を生かした様々な実践を検証して下さいました。

青少年赤十字の研究では、ともすると「健康・安全」「国際理解・親善」「奉仕」の三つの実践目標に目が奪われてしまい、普段の教育活動とかけ離れた新規の活動を企画したり想像したりしてしまいがちです。しかし、両校とも普段の学校生活で取り組んでいる様々な教育実践が、実は「青少年赤十字の精神」という視点からみても自校の教育目標具現につながっていると考えるに立って取り組まれた点特徴的でした。各教科の授業でも、友達とのかかわり合いの中でも、地域との連携

でも、「すべての教育活動が青少年赤十字の精神を生かしたものだといえるのではないか」ということです。これは、青少年赤十字に加盟している県内各校の小・中学校において、無理なくそして確実にJRC活動を推進していく際の参考になるものであり、ここに今回の学校公開の大きな意味があったように思います。学校公開の際に裏方にまわり当日の運営を支えたのが地区内各小・中学校から集まった実行委員の先生方です。両沼地区としていかに研究推進校をバックアップしていくかということは、地区の指導者協議会に課せられた使命でありましたので、前回開催地区の指導者協議会長様や日赤福島県支部の皆様から御指導、御教示を賜りながらの体制づくりであったように思います。両沼地区はここ数年の小・中学校の統廃合で、今年度は二十四校という決して学校数が多い地区というわけではありません。しかし、両沼地区小・中学校長会連絡会からの全面的なバックアップ



新鶴中 生徒総会の様子

や、北会津、耶麻、南会津地区の各青少年赤十字指導者協議会長様、福島県青少年赤十字会津地区賛助奉仕団の皆様からの御支援があつてはじめて実行委員会の組織づくりが出来たと言っても過言ではありません。また、会津美里町赤十字奉仕団、会津美里町社会福祉協議会、新鶴小・中学校PTAの皆様御尽力も欠かせないものでした。多くの皆様に陰に陽に支えて頂きながらの両沼地区での学校公開であり、盛会裡に終了したことに對して関係各位に改めて感謝申し上げます。

「納得のいく授業だった！」

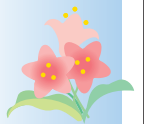


会津美里町立新鶴小学校長
横田 順

題名の言葉は、授業公開終了後六年生の男の子が言った言葉です。

平成二十三年度から「健康安全」「国際理解・親善」「奉仕」の三つの実践目標の下、「気づき・考え・実行する」子どもの育成を目指して取り組んで参りました。当初は、本校の教育課題との関連が十分に検討されず、「なぜやるのか?」ではなく「何をやるか?」という実践目標の一人歩きという状況になってしまっていました。

そこで、もう一度自分たちの実践を見つめ直し、本校の教育課題の解決を図るために青少年赤十字の精神をどう位置づけるか検討を加え、子ども主体の授業、子ども主体の活動への転換を図るべく先生方と時には戸惑い、時には子どものプラス変容に喜びながら実践を積み重ねてきました。公開することについても、先生方と大いに悩みました。「我々の実践が、青少年赤十



横田 順

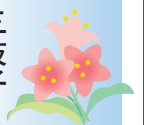
字の指導者研修の授業になっているのか」しかし、子ども達が、青少年赤十字の登録式は何のためにやるのか、自分たちが気づき、考えて、新入生を中心とした登録式を実践する姿を見せてくれたことは、私たち教職員を大いに勇気づけてくれました。

そのような中での公開で、六年生が授業後に「納得」の言葉を残したことに、我々は本当にこの実践が子ども達の血や肉になっていくことを確信できた瞬間でした。

公開が終わった十一月の児童集会「みんなで遊ぼう集会」の企画、立案、実践、反省で見せてくれた動きや発言は、「なかま(国際理解・親善)」や「こころ(奉仕)」の精神が現れた活動となりました。今後、我々に残された課題は、子ども達に新鶴という地域に誇りと愛情を持って自分から一歩を踏み出せる子どもを育てていくことです。最後にになりましたが、長きにわたりご指導、ご支援いた

豊かな関わり合いをもとめて

会津美里町立新鶴小学校 安積 三枝子



幼稚園から中学校まで、ずっと同じ人間関係だけで成長する新鶴の子ども達は、明るくて素直でおしゃべりなのですが、話し合い活動は苦手で大勢の前に出ると緊張して、伝えたいことの半分も表現できないことが悩みでした。

しかし、東日本大震災により植葉や小高地区からの多くの避難児童と学校生活を送るなかで、全国からの支援に感謝し、お互いに関わり合うこと、話し合うことの大切さを徐々に感じていきました。

そして、平成二十四・二十五年年度青少年赤十字研究推進校の指定を受けたことをきっかけに、青少年赤十字の精神を生かして、「気づき・考え・実行する」を「出合い・関わり合い・認め合い」と自校かして、授業や日常で、表現力

の育成を目指してきました。豊かに関わり合うために、他を認め合う学級作りとよりよい話し合い方の指導に重点をおいてきました。友達と伝え合ったり話し合ったりするこの楽しさに気づき始めた子ども達は「自分の言葉で生き生きと語る」ことができるようになってきています。そして私達指導者は効率性だけを求めるのではなく、様々な出合いの種をまき、じっくりと関わり合わせながら、成長を

ぼくは、五年生の時にJRC委員会には入りました。初めは何を活動するのかよく分かりませんでした。でも、JRCの講習会に行き、他校の人と交流しながら、けがをした人を助ける方法やAEDの使い方を学びました。そして、けがをする前に、学校で安全

JRC活動を通して

会津美里町立新鶴小学校 六年 博多 邦尚



待つことの大切さを学びました。「学級をよくしたいです。」「委員会でも〇〇しましょう。」「こんな方法はどうですか。」「最近では、今まで指示待ちだった子ども達が自分達から意見を出し、児童会の活動や学級活動に相談や協力して関わり、積極的に活動しようとしている姿に頼もしさを感じます。「気づき・考え・実行する」ことは、生活全てに関わり、行動していく源ともなります。新鶴の子ども達が、青少年赤十字の精神をこれからもずっと持ち続け、広い視野まわりと豊かに関わり続けていくことを願います。

にみんなが過ごせるように安全マップを作りました。六年生になって委員長として活動しているうちに、戦争で学校に行けない子ども達や働かなくてはいけないうちの子も達がたくさんいることを知りました。「その子ども達のために何かをしたい。」委員会

全員で調べたり話し合ったりして、書き損じ葉書や募金を集める活動をしました。活動しているうちに学校のみんなが進んでたくさん協力してくれるのがうれしくなって、一人ひとりのちよつとした行動が大きな輪になってゆく喜びを感じる事ができました。

ぼくは、JRCの活動を通して、周りの人達と助け合いながら活動してゆくことの大切さを感じる事ができました。そして、いつ何が起きても、人を助けて役に立ちたいと思えました。これからも自分たちができることから一生懸命頑張りたいと思います。

公開を終えて



会津美里町立新鶴中学校 校長

齋藤 聖



おかげさまをもちまして、平成二十五年十月四日(金)に二百五十名の参会者をお迎えし、第三十七回青少年赤十字学校公開を無事開催することができました。二年間にわたりご指導ご支援を賜りました日本赤十字社福島県支部、青少年赤十字福島県指導者協議会をはじめ、多くの関係者の皆様に心から御礼と感謝を申し上げます。公開当日は、遠く大阪府など県外はじめ県内各地区からご参会いただきましたことは、本校教職員だけでなく、生徒達にとっても大きな励みになりました。翌週には山形県から参加いた

いた先生から問い合わせの電話をいただいたことなど、生徒達に紹介したところ、自分たちの取り組みに自信と誇りを持つことができたようです。心より御礼申し上げます。研究集録でも申し上げます。たとおり、本校では、青少年赤十字の「気づき 考え 実行する」という態度目標に軸を置いて実践してまいりました。子ども達に、今、身に付けさせるべき力は何か、どんな力をより伸ばしていくべきなのかを考えた時、今回の指定を受け、青少年赤十字の態度目標である「気づき 考え 実行する」に出会いました。新鶴中の伝統に、教師も

新鶴で育まれる豊かな心

会津美里町立新鶴中学校 教諭

鈴木 智子



新鶴中学校は、全校生百一名の小規模校です。生徒はとも素直で明るく真面目でまとまりがありますが、自主性や競争心が乏しく、積極的に表現することが苦手な面があります。そこで、今までの新

の教育目標を研究主題としたことで、今までの新鶴中学校の良さを生かしながら研究することができたことです。

二つ目は、一年で郷土、二年で英国、三年で日本の首都を体験学習することで、互いの文化や歴史の良さが比較しやすく、視野を広げ自信を持ち、より豊かな心を育むことができたことです。

三つ目は、「ありがとうの樹」のように、生徒や教師が、感謝や励ましのメッセージを交換することで、校内での笑顔や思いやりのある言動が多く見られるようになったことです。

四つ目は、「チャレンジ弁当」などで、家族の思いに気づき考え、自主的に手伝う様

く、やりがいや使命感のような気持ちも感じながら、取り組むことができたのは、大きな収穫と感じています。とはいえ、当日の多くの参会の方には、ご覧いただいた授業など、従来の研究公開との違和

子が多く見られるようになったことです。

五つ目は、家庭や地域の連携による親子除草作業や廃品回収活動などにほとんどの親子が参加し、協力し合って楽しそうに黙々と取り組む姿が見られたことです。

研究の課題としては、今年度初めて実施した放射線教育のように、今後も正しい知識を習得することによって、他のことにも気づき考え、よりよい判断をし、実行することができるようになることを目指してまいります。

最後に、地域や小学校との連携による活動などを今後も積極的に取り組み、美しい自然と温地域に育まれた新鶴の素直な生徒達が、さらに豊かな心を持ち、自己の可能性を拓く生徒に育つよう努力していきたくと考えています。

感を持たれたことと思います。今後は、指定を離れた毎日の教育活動の中で、成果を引き継ぎ、よりよい校風作りにつながっていきたくと考えています。

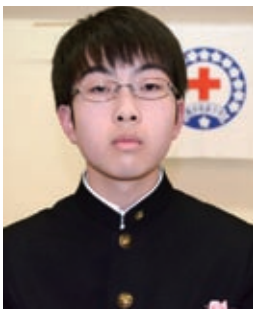
青少年赤十字作品募集 「詩」・「100文字提案」



青少年赤十字の活性化と意識を高めることを目的に県支部事業として平成十八年から引き続き児童生徒の作品募集をして八回目になりました。昨年度から海外の赤十字から寄せられた救援金で行われている「東日本大震災復興支援推進事業」一つとして実施されています。

最優秀に選ばれた作品より「日本赤十字社社長賞」「日本赤十字社福島県支部長賞」(例年通り)が選ばれ、今年度からその他に「福島県青少年指導者協議会会長賞」と「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」が選ばれ、さらに「学校奨励賞」を設定され選考されました。今年度は今までで最多の九十四校から七千五百三十九作品の応募がありました。応募作品別で見ますと詩「いのちの詩・愛の詩」に千二百六十四点、一〇〇文字提案「あたたかい言葉のプレゼント」に千三十六点、「わたしの夢・福島の未来」に二千九百十三点、「お友達ちのすばらしいところ」に千八百七十七点、高校生対象の『東日本大震災で、わたしが「気づき」「考え」「実行したこと、しようと考えていること』に四百二十七点、その他に二十二点、計七千五百三十九の応募がありました。

慎重に審査をするために一次審査を四十五人の審査委員の先生に見ていただき、その集計をもとに十一月十三日(水)日赤県支部において十二名の先生方に二次審査をしていただき、その結果日本赤十字社社長賞一点、日本赤十字社福島県支部長賞五点、福島県青少年赤十字指導者協議会会長賞一点、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞一点、最優秀賞五十五点、優秀賞二百点、佳作二百六十六点、入選四百六十二点、学校奨励賞十四校が選ばれました。



福島市立福島第一中学校
三年 宇野 翔

「卒業式」

社長賞と支部長賞の一人、賛助奉仕団長賞の三人の方々に受賞の感想をいただきました。

あの一瞬で、何も無い平和な小学校生活は、ちぎられるように突然終わってしまった。悲惨な状況が毎日の様にテレビに映し出される。自分が唯一失ったもの、それは卒業式だった。このまま卒業証書がもらえないのではないかと考えたが、学校の校長室で一人ずつ渡されることになった。学校に行くとき先生方が全員で迎えてくださった。でも、何よりも、証書をこういう形で受け取ることに、大きな違和感と不自然さを感じた。

福島市立福島第一中学校
三年 宇野 翔
小学校の卒業式はなつかしい
返事も合唱の練習を
あれほどやつたのに
卒業証書は校長室で
学校先生は友達は
無事だった
先生方拍手や言葉は
一人で受け取るとは温かかった

人びとの思い

喜多方市立第一小学校

四年 國分 真生



お姉ちゃんは、生まれて間もなく、なくなっちゃいました。お母さんはお姉ちゃんの事を話すとき、必ずなみだが出てしまいます。その様子から、とても大切なそんざいだということが感じられました。どんなにおぶつだんやおはか

喜多方市立第一小学校
四年 國分 真生

うちのおはかばは小さいおぶつだんも小さいお姉ちゃんだからお姉ちゃんは一才なる前に天国へ行っちゃったんだけどおはかもケキも分けしてるとええ天国にいって大切な家族の一員だから

が小さくても、そこにはお姉ちゃんを知っている人すべての大きな思いが詰まっているということを詩にしました。

震災の中で見えた希望

福島県立郡山商業高校

三年 福田ひかる



私の両親は共に公務員なので震災後しばらく家に帰って

福島県立郡山商業高校
三年 福田ひかる

私が震災を体験した際に一つだけ安心していたことがあるそれは日本の治安の良さをあまりにも大きな災害を創りだす人との理性と常識をもて行動している証だ私もこの素晴らしい社会の負がある

くることができなかった。当時中学生を卒業したばかりの私は不安でいっぱいだった。しかしそんな私を気遣って近所の人が食料を分けてくれたり、様子を見に来てくれたりしたのだ。

原発事故は人災とも言われているが、震災後に私を助けてくれたのもまた、人だった。その温かい人々に尊敬と感謝の気持ちを込めてこの作品を書いた。

フィリピン台風被災者 支援募金の動き

平成二十五年十一月八日、フィリピン中部を台風三十号(平成二十五年発生最大級の台風)が直撃、レイテ島を中心に猛烈な暴風雨にさらされ各地で洪水や土砂崩れなど甚大な被害が発生しました。被災者の支援のための募金活動等がJRCメンバーにより街頭で、大会で、各学校で行われました。二本松第三中学校と県北地区高校JRCの活動の感想を聞きました。

国際協力

二本松市立二本松第三中学校
生徒会長

二年 吉田 奎吾

以前、僕たちは英語の授業で「国際協力」について学びました。その中で、震災のときにフィリピンの子どもたちが募金をしていたことがとても胸に焼きつけられました。

人と人とのつながり

二本松市立二本松第三中学校

教諭 吉田 哲也

夏休みにJICAの研修で、フィリピンの現状や活動する隊員の現地視察をしました。生活に格差があり、特にゴミ山に住む人々の生活環境は深刻でした。しかし人々は皆夢を持って生きており、その強さに感動しました。また彼らはあの震災の日から、毎月十一日に東北の被災者の為に募金をしているそうです。そして台風災害が起き、今度は僕らの番、と生徒会が立ち上がりました。

今後人と人とのつながりや、支え合いの大切さを伝えたいと思います。



震災支援の

恩返しに

フィリピン支援の

街頭募金

福島県東北地区高等学校
青少年赤十字連絡協議会

会長 鈴木 悠太

(学法松韻学園

福島高等学校 二年)

クリスマス前の十二月二十一日、二十二日に、私たちは、台風で被害を受けたフィリピンを支援するための街頭募金を



赤十字の豆知識…①

「赤十字のおこり」

ソルフェリーノは北イタリア、ミラノの東方約110キロの距離にある。

1859年6月、スイス人アンリー・デュナンは、イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノにほど近いカスティリオオーネで、戦野に放置された傷病兵の悲惨なありさまを目にして「傷ついて兵士は、もはや兵士ではない、人間である。人間同士として尊い生命を救わなければならない。」という思いから、住民とともに敵味方の区別なく救護につとめました。

この時の思い出を著した本「ソルフェリーノの思い出」の中で、救護団体（赤十字社）の設立と国際条約（ジュネーブ条約）の締結を提案しました。

そして、1863年2月にジュネーブに赤十字国際委員会が、また1919年5月に平時活動を担当する国際赤十字・赤新月社連盟が創設されました。その仕事は、はじめデュナンが目的とした戦場での救護だけにとどまらず、今日では人類あらゆる苦痛の救済を目的とする組織になっている。

— 福島県青少年赤十字賛助奉仕団30年のあゆみより —

を福島駅前で行いました。フィリピンとは、以前より交流があり、今年も八月に訪問したばかりでしたし、東日本大震災のときに大きな支援を受けていたので、恩返しのために募金活動をしようということになりました。

寒い中での活動ではありましたが、沢山の方が募金に協力してくれ、また、温かい言葉をかけて下さったので、その度に頑張る意欲が出てきました。おかげで、予想を大きく上回る四十一万円の募金が集まりました。これでフィリピンの復興に役立つことができると思うと、協力していただいた方々には、とても感謝しています。

フィリピン支援募金

福島県立福島東高等学校

三年 大枝 俊貴

十二月二十一日、二十二日

の二日間、県北JRCの一員として、福島駅前募金活動に参加した。「東日本大震災では、フィリピンから多くの支援をいただきました。今度は、私達がフィリピンを助ける番です。」多くの方が振り返ってくださった。感謝を忘れない心が確かに根付いていると感じ、誇らしく思った。気温が低く肌寒い中での活動であったが、「寒いね。」「ご苦労様。」などと声をかけて

くださる方々も多く、人の優しさとありがたさを実感した二日間であった。



あ と が き



「詩」「一〇〇文字提案」は昨年と比べ約一・六倍弱の応募総数になりました。表彰式の会場も県青少年会館に変更になり実施されました。

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました方々、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

